

(仮称) 岡崎阿知和スマートインターチェンジ地区協議会

設立趣意書

岡崎市は、愛知県の中央部に位置し、徳川家康公生誕の地として、このまちに生まれ育った子供たちが、ふるさと岡崎により大きな愛情と誇りを持てる「夢ある新しい岡崎」を目指し、「かわまちづくり」や「歴史的風致維持向上計画」など、多くの事業を展開しております。

本市においては、東名高速道路の岡崎ＩＣ、新東名高速道路の岡崎東ＩＣと２箇所の玄関口がありますが、市街地の東部に位置するため、高速道路を利用する交通が周辺の幹線道路に集中することで渋滞が発生し、地域経済の発展を妨げる一つの要因となっております。

そこで、本市の新たな北の玄関口として（仮称）岡崎阿知和スマートＩＣを整備することにより、高速道路へのアクセス性が向上するとともに、渋滞の緩和および物流の効率化が図られます。また、東名高速道路から北部地域の復旧支援拠点（整備中）へのアクセス機能が確保され、防災力の向上も見込まれます。この他にも、既存の岡崎ＩＣ、豊田東ＩＣと連携とすることで、市内での周遊観光ルートの開発による観光促進など「観光産業都市岡崎」の基盤となります。

当該スマートＩＣの近隣では、この地域の強みでもある自動車関連企業が立地する花園工業団地が整備されております。さらに、本市では最大級の整備面積約５７haとなる阿知和地区工業団地を令和６年度の完成を目指し整備を進めており、スマートＩＣは自動車産業を始めとしたものづくりの中心地としての発展に大きく寄与するものと確信しております。

このため、国土交通省、愛知県、愛知県警察、中日本高速道路株式会社、岡崎市及び道路利用者等の関係機関が連携して、スマートインターチェンジの設置に向け、必要な検討・調整を行い、供用後も継続して、その社会便益・安全性・利用交通量・管理・運営形態等について、定期的にフォローアップし、必要に応じ見直すことを目的として、「（仮称）岡崎阿知和スマートインターチェンジ地区協議会」を設立するものです。

令和元年８月９日

岡崎市長 内 田 康 宏